

# 緑化木の輸出に向けた線虫フリー苗の 育成および品質保持技術

## 苗木・花き部、流通・加工部

### 1 背景、目的

緑化木は、主な用途である公共施設や住宅での緑化需要の減少により、国内全体の需要が減少しています。このような中、本県の主産地である久留米市ではEU現地調査を実施し、ツバキやイヌツゲは需要が見込める新たな輸出品目であることを明らかにしました。そこで、EU向けの緑化木の輸出力強化を図るため、植物検疫での線虫対策技術、出荷期間の拡大のための輸送中の品質保持技術を開発しました。

### 2 成果の内容、特徴

- 1) 緑化木（ツバキ、イヌツゲ）の「線虫フリー苗」を育成し、出荷前に検疫（線虫）対策を行い、リーファーコンテナ（冷蔵可能な輸送コンテナ）を用いて低温、暗黒条件下の船便で輸送することで、EUへの輸出が可能となります（図1）。
- 2) 「線虫フリー苗」の育成方法は、挿し木および鉢上げをする際に培土の代替として線虫汚染防止対策の施されているピートモスを用います。これにより、苗の挿し木発根率、樹高、新梢伸長は慣行の培土と同等で、生育後の有害線虫も検出されません（表1、一部データ略）。
- 3) 出荷前の検疫（線虫）対策である農薬による線虫防除の後に、パラフィンを含む特殊肥料（プロテックα50倍）を葉面散布し、鉢部分を0.03mm厚のポリエチレン袋で被覆することで、葉、土壌からの水分蒸散が抑えられ輸送中の苗重減少を抑制できます（図2、表2、一部データ略）。
- 4) 緑化木の輸出は12～2月を中心に行われていますが、9月および11月に出荷しても1月出荷と同様、輸送後の落葉や葉の変色はほとんど認められず、輸出期間を拡大できます（表2）。

### 3 主要なデータなど

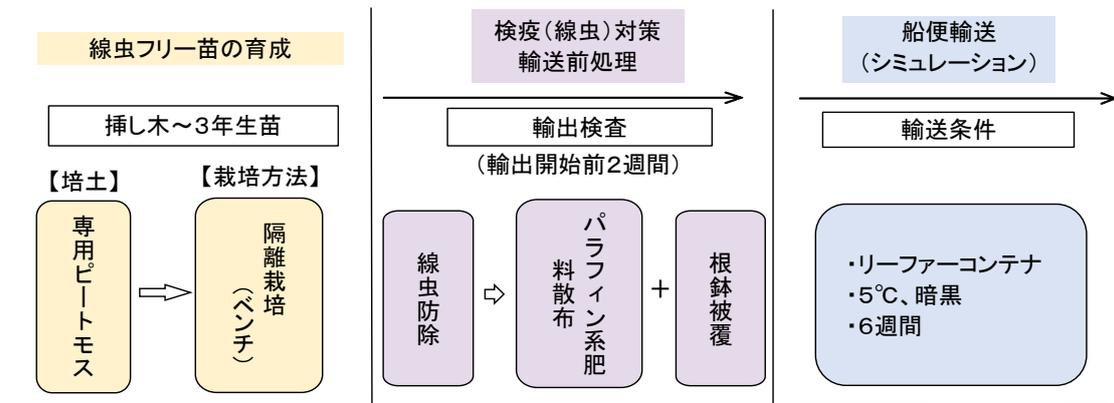


図1 開発技術による緑化木（ツバキ、イヌツゲ）苗の輸出工程

表1 ピートモスを用いたツバキ苗の生育  
(平成27～29年)

用土	挿し木 発根率 (%)	3年生苗 樹高 (cm)	輸送後 新梢長 (cm)
ピートモス	87.4	49.5	14.9
慣行培土	88.5	48.1	12.6

- 注) 1. ピートモスは、製造過程において線虫汚染防止対策が施されているクラスマン社（デンマーク）製を使用。  
2. 輸送条件（模擬試験）：5℃、暗黒、6週間

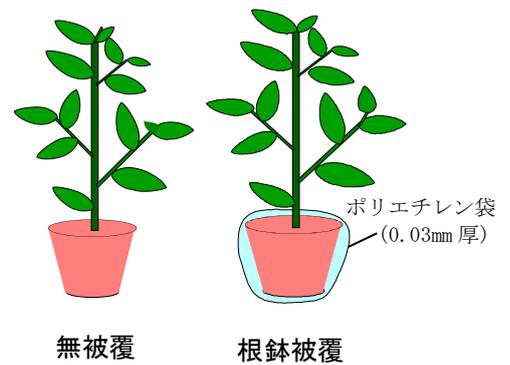


図2 輸送（模擬試験）時の苗木の被覆形態

表2 ツバキの出荷時期および包装形態が苗木の品質に及ぼす影響（平成27、28年）

包装形態	9月出荷			11月出荷			1月出荷（現行）		
	減量率 (%)	落葉率 (%)	葉の変色率 (%)	減量率 (%)	落葉率 (%)	葉の変色率 (%)	減量率 (%)	落葉率 (%)	葉の変色率 (%)
無被覆	21.3	3.8	1.3	14.8	0.2	1.6	11.0	0.0	0.4
根鉢被覆	9.6	2.3	3.5	8.1	0.0	0.1	4.3	0.0	0.2

- 注) 1. 5℃、暗黒条件で6週間貯蔵した後の調査結果。  
2. 減量率は根鉢を含む全重量に対する重量減少割合。  
3. 落葉率：貯蔵後の落葉枚数／貯蔵開始時の着葉枚数。落葉率5%以下は商品性に影響なし。  
4. 葉の変色率：葉の1/3以上が変色した葉数／貯蔵開始時の着葉枚数。変色率5%以下は商品性に影響なし。